

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科 等の 名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人 あたりの在籍 学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち				
							作業療法士数	助手			
リハビリテーション 学科 作業療法 学専攻	4人*	5人	0人	1人	10人*	6人	8人	0人	143人	9人	
計	4人	5人	0人	1人	10人	6人	7人	0人	143人	—	

\*特任教授 1名含む

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
基礎	科学的思考の 基盤 人間と生活 社会の理解	あすなろう	30	久保 温子 他	専任
		地球環境・SDGs 入門	15	橋本 健夫 他	兼任
		関連職種連携入門	15	葛原 誠太 他	兼任
		心理学入門	15	橋本 優花里	兼任
		現代社会と倫理	15	井本 浩之	兼任
		人間論と現代思想	15	井本 浩之	兼任
		文学と言語	15	宇賀神 一	兼任
		生涯学習論	15	上野 景三	兼任
		肥前の歴史と文化	15	松尾 弘毅	兼任
		脳と認知科学	15	松尾 萌美	兼任
		法学	15	児玉 弘	兼任
		日本国憲法	15	池田 宏子	兼任
		グローバル化と異文化共生	15	Trinh Thi Ngoc Lan	兼任
		変わりゆく国際社会を 生きる	15	田中 豊治 他	兼任
		多文化社会学	15	田中 豊治 他	兼任
		くらしと経済	15	権藤 幸憲	兼任
		ジェンダー論	15	藤田 由美子	兼任

生命のしくみ	15	辻田 忠志	兼任
生物と環境	15	北垣 浩志	兼任
身近な生活の化学	15	安田 みどり	兼任
統計学の基礎	15	上山 和俊	兼任
身近な世界の物理学	15	福井 市男	兼任
地域環境科学	15	飯盛 啓生	兼任
健康スポーツ科学	15	平野 貴章	兼任
フィットネス・スポーツ	15	甲木 秀典 他	兼任
ウェルネス・スポーツ	15	近藤 芳昭 他	兼任
データサイエンス入門	15	古賀 浩二 他	兼任
データサイエンス演習	15	山下 義行 他	兼任
情報処理演習	15	古賀 浩二 他	兼任
英語コミュニケーションⅠ	15	園部 ニコル 他	兼任
英語コミュニケーションⅡ	15	園部 ニコル 他	兼任
SDGs 英語	15	園部 ニコル	兼任
World Issues (世界事情)	15	園部 ニコル 他	兼任
医学英語	8	坂本 飛鳥	専任
語学研修	15	園部 ニコル	兼任
中国語	15	周 嵐 他	兼任
韓国語	15	藤 知映	兼任
日本語Ⅰ	15	周 嵐	兼任
日本語Ⅱ	15	Trinh Thi Ngoc Lan	兼任
日本語Ⅲ	15	福元 健志	兼任
日本語検定Ⅰ	15	周 嵐	兼任
日本語検定Ⅱ	15	Trinh Thi Ngoc Lan	兼任
栄養学へのとびら	8	福山 隆志 他	兼任
社会福祉学へのとびら	8	黒田 研二 他	兼任
スポーツ科学へのとびら	8	栗原 淳 他	兼任
リハビリテーション学へのとびら	8	久保 温子 他	専任

保育学・教育学へのとびら	8	田中 麻里 他	兼任
心理学へのとびら	8	岡嶋 一郎 他	兼任
看護学へのとびら	8	中島 洋子 他	兼任
データサイエンスへの とびら	8	井本 浩之 他	兼任
人間関係論	15	原口 健三	専任
障害者福祉論	15	佐々木 隆夫	兼任
レクリエーション論	15	押川 武志	兼任
園芸療法実習	30	小浦 誠吾 他	兼任
園芸論	15	小浦 誠吾 他	兼任
園芸療法論	15	小浦 誠吾 他	兼任
ガーデニング	15	小浦 誠吾 他	兼任
公衆衛生学	15	青柳 潔 他	兼任
関連職種連携論	15	大田尾 浩 他	兼任
教育基礎論	15	上野 景三 他	兼任
リハビリテーション教育学	15	原口 健三 他	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼任)
専門基礎	人間の構造と 機能 及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	15	宮本 明	専任
		解剖学Ⅱ	15	宮本 明	専任
		解剖学実習	23	宮本 明 他	専任
		生理学Ⅰ	15	岸川 由紀	専任
		生理学Ⅱ	15	岸川 由紀	専任
		生理学実習	23	岸川 由紀 他	専任
		人間発達学	15	久保 温子	専任
		運動学	15	植田 友貴	専任
		運動学実習	15	植田 友貴	専任
	疾病と障害の 成り立ち 及び回復過程 の促進	病理学	15	濱田 信之	兼任
		内科学Ⅰ	15	庄野 菜穂子	兼任
		内科学Ⅱ	15	庄野 菜穂子	兼任
		老年学	15	押川 武志 他	兼任
		整形外科Ⅰ	15	青柳 潔	専任
		整形外科Ⅱ	15	青柳 潔	専任
		神経内科学Ⅰ	15	庄野 菜穂子	兼任
		神経内科学Ⅱ	15	庄野 菜穂子	兼任
		小児科学	15	松尾 宗明 他	兼任
		精神医学Ⅰ	15	小松 洋平 他	兼任
		精神医学Ⅱ	15	小松 洋平 他	兼任
		感染予防・救急法	8	諸岡 健一郎	兼任
		臨床薬学の基礎	15	窪田 寿彦	兼任
		画像評価学	15	宮本 明	専任
		リハビリテーション栄養学	15	三嶋 敏雄	兼任
		疾病予防と健康管理	8	久保 温子 他	専任

	保健医療福祉 とリハビリテ ーションの理 念	リハビリテーション概論	15	大田尾 浩 他	専任
		リハビリテーション医療	15	大川 裕行 他	専任
専門	基礎作業療法 学	作業療法学概論	30	松谷 信也	専任
		基礎作業学	30	押川 武志	専任
		基礎作業学実習	45	藤原 和彦	専任
		基礎作業学演習	30	坂本 達哉 他	兼任
		作業療法学研究法	15	原口 健三	専任
		作業療法学研究法演習	30	小浦 誠吾 他	専任
	作業療法管理 学	作業療法管理学	8	原口 健三 他	専任
	作業療法 評価学	作業療法評価学概論	30	松尾 萌美	専任
		作業療法評価学演習Ⅰ	30	松谷 信也 他	専任
		作業療法評価学演習Ⅱ	30	押川 武志 他	専任
		作業療法評価学実習	45	松谷 信也	専任
	作業療法治療 学	身体障害作業療法学	30	松谷 信也 他	専任
		身体障害作業療法学演習	30	植田 友貴	専任
		身体障害作業療法学実習	45	松谷 信也 他	専任
		精神障害作業療法学	30	原口 健三	専任
		精神障害作業療法学演習	30	小松 洋平	専任
		精神障害作業療法学実習	45	小松 洋平	専任
		発達障害作業療法学	30	仙波 梨沙	専任
		高齢期障害作業療法学	30	藤原 和彦	専任
		高齢期障害作業療法学演習Ⅰ	30	押川 武志	専任
		高齢期障害作業療法学演習Ⅱ	30	藤原 和彦	専任
		高次脳機能障害作業療法学	30	松尾 萌美	専任
		高次脳機能障害作業療法学演習	30	松尾 萌美 他	専任
		日常生活活動学	30	松谷 信也	専任
		日常生活活動学演習	30	松尾 萌美	専任
		義肢装具学	30	青柳 潔	専任
		作業療法技術学特論	15	原口 健三 他	専任
作業療法総合演習Ⅰ		15	押川 武志 他	専任	
作業療法総合演習Ⅱ		15	原口 健三 他	専任	
作業療法総合演習Ⅲ		15	松谷 信也 他	専任	
作業療法総括論		30	小浦 誠吾 他	専任	

専門	地域作業療法学	地域作業療法学	15	藤原 和彦	専任
		地域作業療法学演習	30	藤原 和彦 他	専任
		地域作業療法学実習	45	小松 洋平 他	専任
		職業関連活動	15	小浦 誠吾 他	専任
	臨床実習	臨床実習Ⅰ	45 時間	原口 健三 他	専任
		臨床実習Ⅱ	45 時間	原口 健三 他	専任
		臨床実習Ⅲ	180 時間	原口 健三 他	専任
		臨床実習Ⅳ-1	360 時間	原口 健三 他	専任
		臨床実習Ⅳ-2	360 時間	原口 健三 他	専任
	卒業研究	卒業研究	30	小浦 誠吾 他	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
見学実習 (臨床実習Ⅰ)	1年後期	リハビリテーション概論	1年前期
		作業療法学概論	1年前期
		作業療法総合演習Ⅰ	1年後期
通所リハビリテーションの見学と 地域作業療法の理解(臨床実習Ⅱ)	2年後期	臨床実習Ⅰ	1年後期
		作業療法総合演習Ⅱ	2年後期
		地域作業療法学	3年前期
		地域作業療法学演習	3年前期
		地域作業療法学実習	3年後期
作業療法評価の実践と 治療計画の作成(臨床実習Ⅲ)	3年後期	作業療法評価学概論	2年前期
		作業療法評価学演習Ⅰ	2年前期
		作業療法評価学演習Ⅱ	2年後期
		作業療法評価学実習	2年後期
		作業療法総合演習Ⅲ	3年後期
		臨床実習Ⅱ	2年後期
作業療法評価の実践と 治療計画の作成並びに実践 (臨床実習Ⅳ-1, Ⅳ-2)	4年前期	身体障害作業療法学実習	3年前期
		精神障害作業療法学実習	3年後期
		発達障害作業療法学	3年前期
		高齢期障害作業療法学演習Ⅰ	3年前期
		高齢期障害作業療法学演習Ⅱ	3年後期

		日常生活活動学演習	3 年前期
		義肢装具学	3 年前期
		作業療法評価学実習	2 年後期
		作業療法総合演習Ⅲ	3 年後期
		臨床実習Ⅲ	3 年後期

【自己評価 3-3】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	西九州大学リハビリテーション学部点検・評価専門委員会
委員名（委員長）	小浦誠吾（委員長）、久保温子、小松洋平、松谷信也、岸川由紀、中村雅俊
組織の開催頻度	1年に一度（3月に実施） 2026年3月26日開催
組織の取り組み内容	・ 学生による授業評価の分析
	・ 教育改善の研修会(FD研修会など)の開催企画
	・ 外部認証評価による定期的な自己点検評価の実施
自己点検・評価結果の公表	HPで公表

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	西九州大学全学教務委員会
	委員構成等	教務部長、学科毎に2名の教員（内1名は教授）等
	改善の仕組みの実際	毎年度、シラバス作成要領の更改有無について委員会内で確認を行っている。また、教務委員の中からシラバスチェック者を選出し、第三者によるチェックを行っている。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

本作業療法学専攻は、2022年度にリハビリテーション教育評価機構による評価認定審査を受審し、リハビリテーション教育に必要とされる施設基準および教育課程を満たす養成施設として認定を受けました。さらに、世界作業療法連盟(WFOT)の教育基準を充足し、WFOT認可校として国際水準の教育体制を整えております。

自己点検・評価においては、専任教員数、教育内容、臨床実習体制、シラバスの整備状況など、各評価項目において関係法令および指定規則を遵守し運営しています。また教育の質保証に向けた体制は良好であり、継続的改善も図っています。

教育内容および修学環境の向上にあたっては、学生による授業評価アンケートを積極的に活用し、その結果を教育改善に反映させています。学生一人ひとりの学修成果を高めるため、きめ細かな指導体制の整備に努めています。臨床実習においては、実習指導者との連携を重視し、臨床実習指導者会議の開催や実習地訪問を通じて、教員と指導者が密接に協働しながら指導体制の充実を図っています。これにより、実践力と倫理観を兼ね備えた作業療法士の育成を推進しています。

今後も社会のニーズや保健・医療・福祉の動向を踏まえながら、教育内容のさらなる充実と質保証体制の強化を図り、地域社会および国際社会に貢献できる人材の育成に努めてまいります。